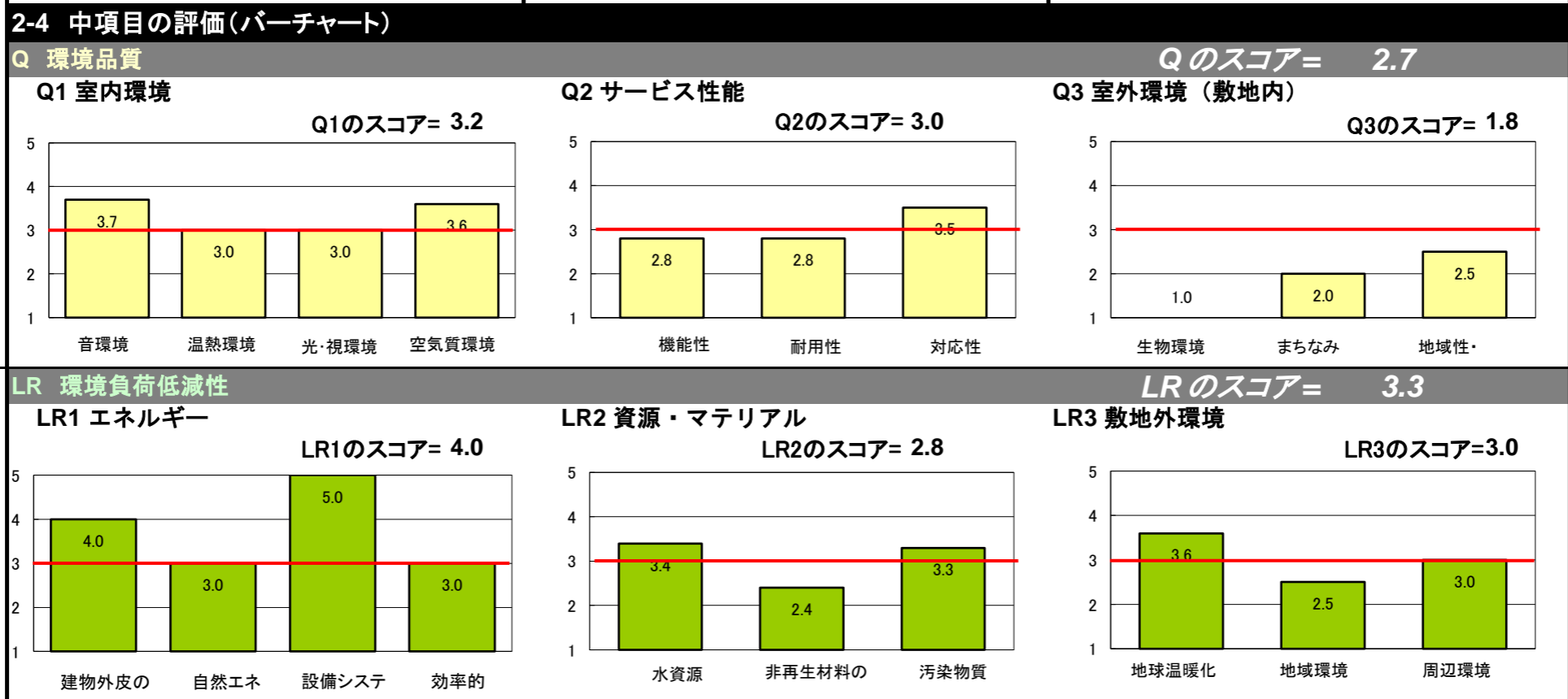
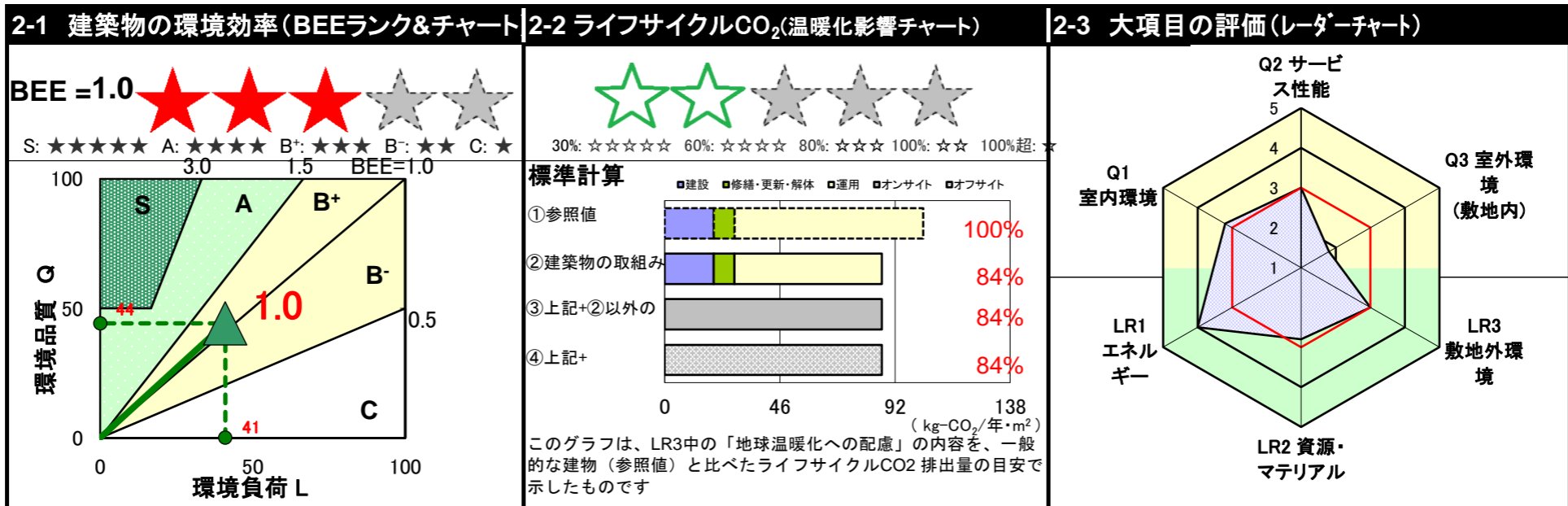


1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)豊橋市新本町プロジェクト	階数	地上9階
建設地	愛知県豊橋市新本町4番、5番1	構造	RC造
用途地域	商業地域、準防火地域	平均居住人員	70人
気候区分	7地域	年間使用時間	8,760時間/年
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2021年6月 予定	評価の実施日	2020年3月4日
敷地面積	668㎡	作成者	村井 資英
建築面積	281㎡	確認日	2020年3月4日
延床面積	2,126㎡	確認者	村井 資英



3 重点項目	
<p>①地球温暖化への配慮</p> <p><b>3.6</b></p>	<p>③敷地内の緑化</p> <p><b>1.0</b></p> <p>外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)</p> <p>1.7 %</p> <p>建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)</p> <p>0.0 %</p>
<p>②資源の有効活用</p> <p><b>2.6</b></p>	<p>④地域材の活用</p> <p><b>1.0</b></p> <p>&lt;外装材に使用した地域性のある材料&gt;</p> <p>なし</p> <p>&lt;建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材&gt;</p> <p>なし</p>

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮

LR-3 1 地球温暖化への配慮

②資源の有効活用

Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性

LR-2 2 非再生性資源の使用量削減

③敷地内の緑化

Q-3 1 生物環境の保全と創出

$$\text{外構緑化指数} = \frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積から建物面積(建築面積及び附属物面積)を除いた}} \times 100$$

$$\text{建物緑化指数} = \frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建築によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$$



スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部						住居・宿泊部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	独自基準 重点項目	環境配慮設計の概要記入欄			評価点	評価点	重み 係数	評価点	評価点	重み 係数	評価点	評価点	重み 係数	全体
		Q 建築物の環境品質												
Q1 室内環境														3.2
1 音環境														3.7
1.1 室内騒音レベル														3.0
1.2 遮音														4.0
1 開口部遮音性能														5.0
2 界壁遮音性能														5.0
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)														4.0
4 界床遮音性能(重量衝撃源)														3.0
1.3 吸音														3.0
2 温熱環境														3.0
2.1 室温制御														3.0
1 室温														3.0
2 外皮性能														3.0
3 ゾーン別制御性														3.0
2.2 湿度制御														3.0
2.3 空調方式														3.0
3 光・視環境														3.0
3.1 昼光利用														3.0
1 昼光率														3.0
2 方位別開口														3.0
3 昼光利用設備														3.0
3.2 グレア対策														3.0
1 昼光制御														3.0
3.3 照度														3.0
3.4 照明制御														3.0
4 空気質環境														3.6
4.1 発生源対策														4.0
1 化学汚染物質														4.0
4.2 換気														3.0
1 換気量														3.0
2 自然換気性能														3.0
3 取り入れ外気への配慮														3.0
4.3 運用管理														3.0
1 CO <sub>2</sub> の監視														3.0
2 喫煙の制御														3.0
Q2 サービス性能														3.0
1 機能性														2.8
1.1 機能性・使いやすさ														3.0
1 広さ・収納性														3.0
2 高度情報通信設備対応														3.0
3 バリアフリー計画														3.0
1.2 心理性・快適性														3.0
1 広さ感・景観 (天井高)														3.0
2 リフレッシュスペース														3.0
3 内装計画														3.0
1.3 維持管理														3.5
1 維持管理に配慮した設計														4.0
2 維持管理用機能の確保														3.0
2 耐用性・信頼性														2.8
2.1 耐震・免震・制震・制振														3.0
1 耐震性(建物のこわれにくさ)														3.0
2 免震・制震・制振性能														3.0
2.2 部品・部材の耐用年数														3.0
1 躯体材料の耐用年数														3.0
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔														3.0
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔														3.0
4 空調換気ダクトの更新必要間隔														3.0
5 空調・給排水配管の更新必要間隔														3.0
6 主要設備機器の更新必要間隔														3.0
2.4 信頼性														2.2
1 空調・換気設備														3.0
2 給排水・衛生設備														3.0
3 電気設備														3.0
4 機械・配管支持方法														3.0
5 通信・情報設備														3.0

3 対応性・更新性			0.2	3.0	0.29	3.6	3.6	1.00	3.5
3.1 空間のゆとり			-	-	-	4.2	4.2	0.50	-
1	階高のゆとり	住戸部の階高を2.9m以上確保	-	-	-	-	5.0	0.60	-
2	空間の形状・自由さ		3.0	-	-	-	3.0	0.40	-
3.2 荷重のゆとり			3.0	-	-	-	3.0	0.50	-
3.3 設備の更新性			1.0	3.0	1.00	-	-	-	-
1	空調配管の更新性	②	-	3.0	0.17	-	-	-	-
2	給排水管の更新性		3.0	3.0	0.17	-	-	-	-
3	電気配線の更新性		3.0	3.0	0.11	-	-	-	-
4	通信配線の更新性		3.0	3.0	0.11	-	-	-	-
5	設備機器の更新性		3.0	3.0	0.22	-	-	-	-
6	バックアップスペースの確保		3.0	3.0	0.22	-	-	-	-
Q3 室外環境(敷地内)			-	-	0.30	-	-	-	1.8
1 生物環境の保全と創出			独自③	1.0	0.30	-	-	-	1.0
2 まちなみ・景観への配慮			独自④	2.0	0.40	-	-	-	2.0
3 地域性・アメニティへの配慮			-	0.3	2.5	0.30	-	-	2.5
3.1 地域性への配慮、快適性の向上			独自④	3.0	0.50	-	-	-	-
3.2 敷地内温熱環境の向上			-	2.0	0.50	-	-	-	-
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	-	-	-	3.3
LR1 エネルギー			-	-	0.40	-	-	-	4.0
1 建物外皮の熱負荷抑制			熱貫流率の低い断熱材を使用	3.0	4.0	0.33	-	-	4.0
2 自然エネルギー利用			-	3.0	3.0	0.17	-	-	3.0
3 設備システムの高効率化			BEI=0.80	3.0	5.0	0.33	-	-	5.0
4 効率的運用			-	0.1	3.0	0.17	-	-	3.0
集合住宅以外の評価			-	-	-	-	-	-	-
4.1 モニタリング			-	3.0	-	-	-	-	-
4.2 運用管理体制			-	3.0	-	-	-	-	-
集合住宅の評価			-	1.0	3.0	1.00	-	-	-
4.1 モニタリング			-	-	3.0	0.50	-	-	-
4.2 運用管理体制			-	-	3.0	0.50	-	-	-
LR2 資源・マテリアル			-	-	0.30	-	-	-	2.8
1 水資源保護			-	0.1	3.4	0.15	-	-	3.4
1.1 節水			節水型の便器を取付	3.0	4.0	0.40	-	-	-
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			-	0.6	3.0	0.60	-	-	-
1 雨水利用システム導入の有無			-	3.0	3.0	1.00	-	-	-
2 雑排水等利用システム導入の有無			-	3.0	-	-	-	-	-
2 非再生性資源の使用量削減			-	0.6	2.4	0.63	-	-	2.4
2.1 材料使用量の削減			-	-	2.0	0.07	-	-	-
2.2 既存建築躯体等の継続使用			-	-	3.0	0.24	-	-	-
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用			②	-	3.0	0.20	-	-	-
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用			独自	-	3.0	1.0	0.20	-	-
2.5 持続可能な森林から産出された木材			-	3.0	2.0	0.05	-	-	-
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み			独自	3.0	3.0	0.24	-	-	-
3 汚染物質含有材料の使用回避			-	0.2	3.3	0.22	-	-	3.3
3.1 有害物質を含まない材料の使用			内装材及び建具は、F☆☆☆☆製品を使用	3.0	4.0	0.32	-	-	-
3.2 フロン・ハロンの回避			-	0.6	3.0	0.68	-	-	-
1 消火剤			-	-	-	-	-	-	-
2 発泡剤(断熱材等)			-	-	3.0	0.50	-	-	-
3 冷媒			-	3.0	3.0	0.50	-	-	-
LR3 敷地外環境			-	-	0.30	-	-	-	3.0
1 地球温暖化への配慮			①	-	3.6	0.33	-	-	3.6
2 地域環境への配慮			-	0.3	2.5	0.33	-	-	2.5
2.1 大気汚染防止			-	-	3.0	0.25	-	-	-
2.2 温熱環境悪化の改善			-	-	2.0	0.50	-	-	-
2.3 地域インフラへの負荷抑制			-	0.2	3.2	0.25	-	-	-
1 雨水排水負荷低減			独自	-	3.0	0.25	-	-	-
2 汚水処理負荷抑制			-	-	3.0	0.25	-	-	-
3 交通負荷抑制			独自	-	5.0	0.25	-	-	-
4 廃棄物処理負荷抑制			-	-	2.0	0.25	-	-	-
3 周辺環境への配慮			-	0.3	3.0	0.33	-	-	3.0
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			-	0.4	3.0	0.40	-	-	-
1 騒音			独自	-	3.0	1.00	-	-	-
2 振動			独自	-	-	-	-	-	-
3 悪臭			-	-	-	-	-	-	-
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制			-	0.4	3.0	0.40	-	-	-
1 風害の抑制			-	-	3.0	0.70	-	-	-
2 砂塵の抑制			-	-	1.0	-	-	-	-
3 日照障害の抑制			-	-	3.0	0.30	-	-	-
3.3 光害の抑制			-	0.2	3.0	0.20	-	-	-
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策			-	-	3.0	0.70	-	-	-
2 屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策			-	-	3.0	0.30	-	-	-

**重点項目スコアシート**

実施設計段階

■使用評価マニュアル

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き

(仮称)豊橋市新本町プロジェクト

■評価ソフト:

CASBEE-BD\_NC\_2016(v2.1)\_AICHI

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する重み係数	重点項目スコア
<b>① 地球温暖化対策</b>				<b>3.6</b>
LR3-1	地球温暖化への配慮	3.6	0.10	
<b>② 資源の有効活用</b>				<b>2.6</b>
Q2-2	耐震性・信頼性	2.8	0.09	
Q2-3	対応性・更新性	3.0	0.09	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	2.4	0.19	
<b>③ 敷地内の緑化</b>				<b>1.0</b>
Q3-1	生物環境の保全と創出	1.0	0.09	外構緑化:1.7%/建物緑化:0%
<b>④ 地域材の活用</b>		(評価ポイント)		<b>1.0</b>
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	なし
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-	なし

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和

重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

計画上の配慮事項	
総合	本計画は、豊橋駅や豊橋市役所に近く、利便性の高いところに位置する共同住宅である。外観は、周辺の環境に調和するような色調のデザインとしている。1階が店舗、2階が事務所、3～9階が住居という構成となっている。
Q1 室内環境	入居者へ快適な生活空間を提供するために、断熱性の高い住戸空間となるように努めている。 また、周辺設備や収納等を充実させ、さらなる快適空間を目指した。
Q2 サービス性能	定期的な点検補修・追跡調査できる維持管理体制となるよう努めている。
Q3 室外環境(敷地内)	殺伐とした風景とならないよう、出入り口付近に植栽を設けた。
LR1 エネルギー	住戸部分は、省エネ基準に適合させ、快適な生活空間を提供するよう、配慮した。
LR2 資源・マテリアル	有害物質の含まない建材の使用に努め、快適な住空間となるように努めた。
LR3 敷地外環境	居住者用の自転車置き場を適切に確保している。また、車輛の出入りは交通量の多い通りを避け、北側の道路からアクセスするようにし、周辺の交通環境に配慮した。
その他	注) 上記の6つのカテゴリー以外に、建設工事における廃棄物削減・リサイクル、歴史的建造物の保存など、建物自体の環境性能としてCASBEEで評価し難い環境配慮の取組みがあれば、ここに記載してください。